



「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」★
長谷川義史/作
BL出版 (Eハセガ)

おじいちゃんのおじいちゃんはどうな人？時代をさかのぼり、ぼくはおじいちゃんに会いに行く。歴代のおじいちゃんたちは、その時代の生活をぼくに見せながら、家族のつながりを教えてくれた。言葉と風景、探し絵も楽しめる、何度も発見のある1冊。



「としよかんライオン」★
シエル・ヌートセン/さく ケビン・ホクス/え
福本友美子/訳 岩崎書店 (Eホクス)

ある日、一頭のライオンが図書館に現れます。皆びっくりしますが、館長のメリウェザーさんだけは別。「図書館のきまりを守れば、ライオンだって来てよいのです」だって！ 子どもたちとおはなしを聞いたり、お手伝いをしたり、皆の人気者になったライオン。しかし、大声をだしてはいけないきまりをやぶってしまい…。



「へっこきあねさがよめにきて」●(日本)
大川悦生/文 太田大八/絵
ポプラ社 (Eオオタ)

ある男のところにとついできた嫁は、とても働き者の良い娘。男も母親も大喜びですが、だんだん嫁の様子がおかしくなってきました。母親がわけを聞くと、嫁は屁(おなら)を我慢しているというのです。遠慮せずすればいいと言われ、思い切って屁をす…ぼん、ぼん、ぼが～ん！！ ユーモアあふれる日本の昔話です。



「わたし、ほんとにうんががいい」●
せなけいこ/文・絵
鈴木出版 (Eセナケ) (イギリス)

にこにこばあちゃんが歩いていっていると、道に古いつぼがおちていました。つぼの中をのぞくと、びっくり！ きんかがぎっしり入っています。ばあちゃんはおよろこびでつぼをもちかえろうとしますが、つぎつぎとふしぎなことがおこって…。イギリスのゆかいなむかし話。



「ふたごのもうふ」★
ヘウオン・ユン/さく せなあいこ/やく
トランスビュー (Eユンハ)

うりふたつの双子のわたしたちは仲良くなんでもわけっこしてきた。でも、5歳になって一枚の毛布にふたりで寝るのは、小さすぎてけんかになっちゃった。はじめて自分だけの毛布をもつワクワクと、ひとりで寝るドキドキを、ほほえましく描いたおはなし。



「ロバのシルベスターとまほうの小石」★
ウィリアム・スタイグ/作 せたていじ/やく
評論社 (Eスタイ)

ある日、ロバのシルベスターは赤く光るきまよ様な小石を拾いました。なんとそれは触って願い事を言うと叶えてくれる小石だったのです。ところが、突然現れたライオンに驚いたシルベスターは、うっかり自分を岩に変えてしまいました。自分ではもとの姿に戻れなくなってしまったシルベスターの運命は？



「十二支のはじまり」●(日本)
岩崎京子/文 二俣英五郎/画
教育画劇 (Eフタマ)

むかし、ある年の暮、神様は動物たちにおふれをだしました。「正月の朝、御殿に来たものから12番まで、順番に1年ずつ、その年の大将にする」動物たちは自分こそいちばんのりだと大騒ぎです。その後、いつ御殿に行くのを忘れてしまったねこが、ねずみに日にちを聞きに来ましたが、ねずみはうそを教えます。



「ふしぎなしろねずみ」●(韓国)
チャン・ Cholmun/文
ユン・ミスク/絵 かみやにじ/訳
岩波書店 (Eユン)

昼寝をしているおじいさんの鼻を、出たり入ったりしているしろねずみ。やがておじいさんの体から抜け出したしろねずみは雨の中を出かけて行きます。あとをつけたおばあさんが見たものとは？ 韓国の不思議な昔話。



「しゃっくりがいつ」★
マーゼリー・カイラー/作 S.D.シンドラー/絵
黒宮純子/訳 らんか社 (Eシンド)

しゃっくりがとまらないがいつ。頑張るとめよとしますがうまくいきません。なぜなら、がいつの体はスカスカの骨！ 息を止めてももれてしまうし、水を飲んでもこぼれてしまいます。その時、友達のおバケがいいことを思いつきました。しゃっくりを止める驚きの方法とは？



「さんまいのおふだ」●(日本)
水沢謙一/再話 梶山俊夫/画
福音館書店 (Eカジヤ)

山へ花を探しに行き、道に迷ってしまったこぞうさん。すっかり夜もふけて困っていると、山のむこうに小さな家の灯りを見つけました。その家に住んでいるおばばに一晚泊してもらうことにしましたが、夜中に目を覚ますと「こぞうはうまそうだな」という声が…。



「なしとりきょうだい」●(日本)
かんだわとしこ/文 えんどうてるよ/絵
ポプラ社 (Eエント)

病気のお母さんのため、山へなしをとりに行くことにした三兄弟。最初は長男のたろうが、次に二男のじろうがでかけましたが、二人は沼の主に吞まれ、帰ってきませんでした。そこで末っ子のさぶろうが行くことになりました。「いけっちゃんかさかさ、いくなっちゃんかさかさ」という不思議な歌に導かれて歩いていく…。



「パンのかけらとちいさなあくま」●
内田莉沙子/再話 堀内誠一/画
福音館書店 (Eホリウ) (リトアニア)

ちいさなあくまは貧乏なきこりのパンを盗み、おおきなあくまたちにひどく叱られてしまいます。おわびにきこりの願いをきいて沼を麦畑にかえませんが、意地悪な地主に横取りされてしまいました。ちいさなあくまは麦畑を取り戻すことができるのでしょうか？



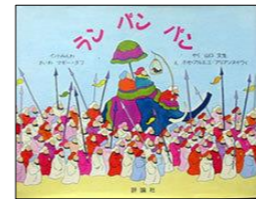
「あかちゃんのゆりかご」★
レベッカ・ボンド/作
さくまゆみこ/訳 偕成社 (Eボンド)

生まれてくる赤ちゃんのために、お父さんがゆりかごを作りました。おじいちゃんの色をつけ、おばあちゃんはキルトを縫いました。家族みんなが心をこめてひとつのゆりかごを完成させます。赤ちゃんの誕生を心待ちにしている家族の様子や表情が可愛らしく描かれた絵本。



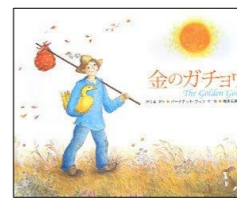
「かさじぞう」●(日本)
瀬田貞二/再話 赤羽末吉/絵
福音館書店 (Eアカハ)

昔、貧乏なおじいさんとおばあさんがいました。おじいさんは正月の餅を買うために、町へ笠を売りに行きましたが全く売れません。がっかりして帰る途中、雪の中に立つ地藏さまに持っていた笠を全てかぶせてあげました。すると明け方、地藏さまたちのかけ声がして…。心優しいおじいさんに起こった、大晦日のお話。



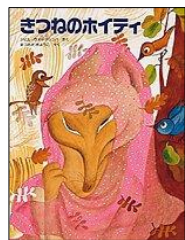
「ランパンパン」●(インド)
マギー・ダフ/さいわ ホセ・アルエゴ/え
山口文生/訳 評論社 (Eアルエ)

“ランパンパン”と太鼓をたたいて行進するクロドリ。王さまに連れて行かれてしまった奥さんを奪いかえすため、戦いの準備をして宮殿へ向かっています。途中、ネコや木の枝、川、アリが仲間になり、クロドリの耳の中におさまって一緒に宮殿に乗りこみます。強い力を持つ王さまに知恵で勝負する勇ましいおはなしです。



「金のガチョウ」●(グリム)
グリム/原作
パーナデット・ワッツ/文・絵
福本友美子/訳 BL出版 (Eウオツ)

家族みんなからばかにされているすえむすこは、森でふしぎなこびとに出会います。「おまえはやさしくしてしんせつだから、おれにしあわせにしてやろう…」こびとの言う通り木を切り倒すと、そこには金のガチョウが座っていました。



「きつねのホイティ」★
シビル・ウェッタシンハ/さく
まつおかきょうこ/訳 福音館書店 (Eウエ)

くいしんぼうのキツネ・ホイティは人間になりすまし夕食を食べ歩きます。ところが、おかみさんたちに調子にのった悪口の歌を聞かれてしまってさあ大変！ おかみさんたちが考えたホイティへの仕返しとは？ 愉快なスリランカの絵本。



「うりこひめ」●(日本)
松谷みよ子/作 つかさおさむ/絵
童心社 (Eツカサ)

瓜(うり)から生まれたうりこひめは、子どものいないじいとおばに育てられ、美しい娘に成長しました。長者の嫁に行くことが決まったある日、ひとりで留守番をしていると、家にあまんじゃくというおにが現れ、外に連れ出されてしまいます。まんまとうりこひめと入れ替わったあまんじゃくは…。



「天の火をぬすんだウサギ」●(北米)
ジョアンナ・トゥロートン/さく
山口文生/訳 評論社 (Eウロ)

昔、火は天にだけあり、地上の動物たちは寒さに震えていました。そこでかしいウサギは、天から火を盗んできます。火はウサギからいろいろな動物にリレーされて地上に運ばれました。リスのしっぽやアライグマの体の模様が、どうして今の形になったのかなどが描かれた、北米インディアンに伝わるおはなし。



「むしをたべるくさ」◆
渡邊弘晴/写真
伊地知英信/文
ポプラ社 (B4779)

ネバネバした丸い液体でハエやトンボを捕まえるモウセンゴケ。つぼに落ちた獲物が引き返せない形をしたウツボカズラ。閉じた葉で栄養を吸い取るハエトリグサ。虫を食べる植物たちの世界をのぞいてみましょう。



「からだのなかで
ドンドンドンドン」◆
木坂涼/ぶん あべ弘士/え
福音館書店(E7ヘ7)

人間も、犬も、猫も、とかげも、鳥も、クジラだって、生きています。のはみんな、命の音を持っています。心臓に耳をあてれば聞こえてくるよ、ドゥン、ドゥン、ドゥン。自然のふしぎをわかりやすくかいた「ちいさなながくのとも」シリーズの絵本です。



「いえができるまで」◆
砺波周平/取材・構成・写真
ひさかたチャイルド(B52ナミ)

家を一軒作り上げるまでの写真絵本。関わるのは大工さんだけではありません。基礎工事から家の形を作る柱の棟上げ、建前をすませたら左官屋さんが壁を塗り、窓をサッシ屋さんが、トイレを水道屋さんが取り付ける。家作りに関わっている人と物がよ〜わかります。



「おすしのさかな」◆
ひさかたチャイルド(B59オスシ)

みんなの大好きなお寿司。その材料である魚は、お皿に乗る前はどんな姿をしていたのかな？ 広い海でスイスイ泳ぐ様子から、釣り上げられ、職人さんのお手でお寿司になるまでを、写真でわかりやすく紹介。おいしいお寿司について楽しく学べる一冊です。へいおまち！



「おかしなゆきふしぎなこおり」◆
片平孝/写真・文
ポプラ社(B45カセ)

雪や氷は降り方や場所、気温によって色々な形に変身します。はげしく降る雪は、高く積もったコックさんの帽子。波しぶきを作る、氷のシャンデリア。奇妙な形に育った樹氷、アイスモンスター！自然の神秘を美しく切り取った写真絵本です。



「おそらにはてはあるの？」◆
佐治晴夫/文 井沢洋二/絵
玉川大学出版部(E1サ7)

お空はどこまでも続いているの？それともどこかに終わりはあるのかな？もしかしたら、夜空いっぱいのお星さまにヒントがあるかもしれません。

素朴な宇宙の疑問に、物理学者がやさしい言葉で答えた色鮮やかな知識絵本。

《その他おすすめの本》

- 「じごくのそうべえ」★
田島征彦/作
童心社 (E7ジマ)
- 「そらからぼふ〜ん」★
高島那生/作
くもん出版 (E7カハ)
- 「ずーっとずっとだいすきだよ」★
ハンス・ウィルヘルム/えとぶん
評論社 (E7ビル)
- 「いろいろななかぞくのほん」★
マリ・ホフマン/ぶん ロス・アスキス/え
少年写真新聞社 (E7アスク)
- 「したきりすずめ」(日本)●
松谷みよ子/作 片山健/絵
童心社 (E7カヤ)
- 「ねずみのすもう」(日本)●
樋口淳/ぶん 二俣英五郎/絵
ほるぷ出版 (E7タマ)
- 「ふしぎなボジャビのき」(アフリカ)●
ダイアン・ホフマイヤー/再話 ビート・フロブナー/絵
光村教育出版 (E7ロフ)
- 「おだんごぱん」(ロシア)●
瀬田貞二/訳 脇田和/画
福音館書店 (E7キタ)
- 「はなのあなのはなし」◆
やぎゆうげんいちろう/作
福音館書店 (E7ヤキユ)
- 「なく虫ずかん」◆
大野正男/文 松岡達英/絵
福音館書店 (B48オオノ)
- 「まほうのコップ」◆
藤田千枝/原案 河島敏生/写真
福音館書店(E7クワン)

2020年8月
編集：福島市子どもライブラリー(Tel.526-4200)
発行：福島市立図書館(Tel.531-6551)

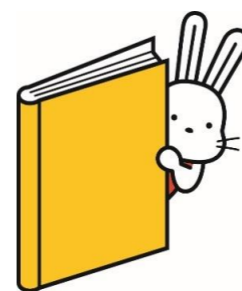
【福島市立図書館】
○開館時間 月～土：午前9時30分～午後7時
日・祝日：午前9時30分～午後5時30分
○休館日 火曜日
館内整理日

【子どもライブラリー】
○開館時間 毎日：午前9時30分～午後7時
○休館日 火曜日

学習センターについては、各館にお問合せください。

えほん

～4・5歳児のためのブックリスト～



はじめに

4・5歳の頃は「読み聞かせの黄金期」だと言われています。様々なことを吸収しやすいこの時期、良い絵本との出会いは子どもの好奇心を満たすだけでなく、将来まで続く心の栄養となってくれます。

このリストでは、長く読み継がれているものから新しいものまで、図書館員が選んだ41冊を紹介しています。読み聞かせはもちろん、親子で本を選ぶときの参考にぜひご活用ください。

絵本についているマークについて

- ★・・・ものがたり
- ・・・むかしばなし
- ◆・・・知識の本



「ぐるんぱのようちえん」★
西内ミナミ/文
堀内誠一/絵
福音館書店(Eホリウ)

ぐるんぱはひとりぼっちのきかないぞう。仲間になれぬきに出ましたが、ビスケット屋、お皿作り、靴屋など、どの仕事しても失敗ばかり。ところが子どもたちと遊んでみると…。ぐるんぱが自分にぴったりの居場所を見つけるまでのおはなし。



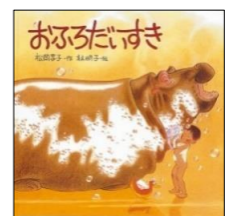
「くいしんぼうのはなこさん」★
いしいももこ/ぶん
なかたにちよこ/え
福音館書店(Eナカタ)

こうしのはなこは、わがままで食いしん坊。山の牧場でも誰よりも大きく強いので、いつも威張っています。ある日、お芋やかぼちゃを食べ過ぎたはなこは、体がばんばんにふくらんでしまい大騒ぎになりました。



「むしむしでんしゃ」★
内田麟太郎/文
西村繁男/絵
童心社(Eニシム)

むしむしでんしゃが発車します。ののたんののたん。ののたんののたん。乗っているのは、チョウにバツタ、よわむし、なきむし?! さあ、むしむしでんしゃはどこにむかうのかな。虫好きにも電車好きにもおすすめです。



「おふろだいすき」★
松岡享子/作
林明子/絵
福音館書店(Eハヤシ)

おふろが大好きなぼくは、今日もあひるのプッカと一緒に入ります。体を洗っていると、おふろからかめが浮いてきました。続いてペンギンやオットセイ、カバたちもやってきて、たちまち遊び場に変身! おふろが苦手な子も楽しめる絵本です。



「つきよのかいじゅう」★
長新太/さく
佼成出版社(Eチヨウ)

その湖には昔から怪獣がいると言われていた。男は10年ものあいだ怪獣を待っていた。いったいどんな姿をしているのか、男の想像は膨らんでいく。驚きのその正体とは？親子で楽しめるナンセンス絵本です。

福島市立図書館